



## 新しいキャッチフレーズができました！

AEFA（アエファ）とは、A = 明るい E = 笑顔を F = 振りまき A = 歩く会です。アジアの明るい笑顔を日本に 振りまき歩く会であり、アジアに日本の明るい笑顔を振りまき歩く会でもあります。

学校建設と国際交流を推進して13年。今年（2017年）末で建設校数は累計270校、出前授業は累計645回になります\*。アジアの子供たちへの支援、日本の子供たちとの学び合いを通して、思いがけない経験や気付き、感動を皆さんと共有してきました。

\* 2017年11月時の見込み

## AEFAの挑戦

AEFAの挑戦はさらに続きます。建設した270校のフォロー、国際交流事業の充実、ドナー（支援者）の求める付加価値の創出など、やるべき事は尽きません。

現地における先生の充実や産休代理制度の立ち上げ、AEFAスクールのデータ集および写真アルバムの作成、出前授業講師団の組成、ドナー企業の発掘、AEFA組織の充実=ボランティアを含むスタッフの充実や体制の整備など、多くの課題に直面しています。



建設校(270校)のフォロー

国際交流の充実

現地の先生への支援

AEFAスクールの紹介

国内体制の整備・拡充

## 私たちの原動力

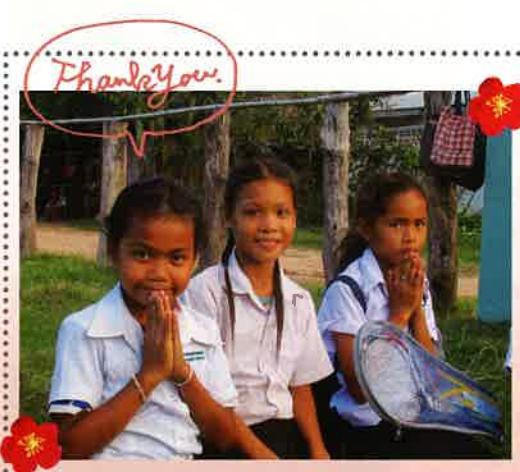
これらの課題を理解し共に挑戦してくださる皆さんの笑顔が、私たちの原動力です。

AEFAはドナー（支援者）に、単なる寄付者ではなく支援事業のパートナーとしての参画意識を持つようお願いしています。また、支援の結果を確認していただけるよう、個別に事業成果を具体的に丁寧に報告しています。

「支援」とは、お金を提供するということだけではなく「善意」であり「思いやり」です。こうした善意や思いやりは、相手のために無私の心で振りかけなければ振りかけるほど、自分自身にも降りかかり、相手も自分も笑顔にする不思議な力を持っています。

今後とも皆様と一緒に挑戦を続け、笑顔を振りまき歩くAEFAでありたいと願っています。

アジア教育友好協会 AEFA 理事長  
谷川 洋



## 年末年始のご挨拶

2017年、皆様の心からの応援でAEFAは活動することができました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。2018年度も新しい気持ちで、AEFAスタッフ一同、より一層ベトナムやラオス、アジアの子どもたちのために共に前進していくこうと思っています。そして一緒に世界に笑顔を振りまきましょう！どうぞよろしくお願いいたします。

戌



チャンパサック大学教育科学部ラオス語専攻入学予定！  
ぼくは、使命を果たし、目標達成のため勉強に全力を尽くすことをお約束します。大学で得た知識と経験を、故郷のために役立てます。僕が勉強を続けることを支えてくださっている方々へ、感謝申し上げます。



カムソン ポンマニスックくん  
1998年6月5日生  
サラワン県タオイ郡パスム村出身  
ブオンナム中学校、タオイ郡高校卒

### ホーン

サイタパンくん  
(タオイ郡出身)  
棟梁を目指して、職業訓練校で2年間学びました。水力発電用ダムで実習、基礎構造やメンテナンスについて経験しました。卒業後は、社会をよくするためにスキルを活かしたい。



村出身で民族の言葉がわかるので、子供が慕ってくれます。“教員研修会”にぜひ参加して、スキルを向上させたいです。（近江兄弟社様のご支援）



サリンダー チャンタピーさん  
2017年、教員養成短大を卒業。母校・カニヨンケクナイ小学校の教員に！

### カモン サイヤセットくん

(タオイ郡ボーバイ村出身)  
パチュドン中学校、タオイ郡高校卒業。  
ベトナム南部ビンディン省の大学で、ITを学ぶため留学が決定。（サラワン県教育スポーツ局支援）



みなさんのおかげで高校まで修了し、留学という素晴らしい機会を得ました。期待と不安でいっぱいですが、学んだことを故郷と国の発展のために役立つことをお約束します。

## MOTTAINAIプロジェクト



二黒板に生まれ変わりました！

<東京黒板製作所様&日本理化学工業様（ダストレスチョーク）のご支援>

上級生がやさしく教える姿に、お互いに学び合う、学びの原点を感じます。  
(カムトーン小学校・中学校にて)

## 10年前の建設校は、今…

2つの民族の子供が学ぶクアンシー小学校を視察。学校運営は、村人の協力で着実になされていました。学校プロジェクト開始当時は、民族が異なるために誤解や衝突もありました。

しかし、「共に創る」AEFAプロジェクトがきっかけとなり、村人同士が話し合いを重ね、お互いの理解が進みました。  
今回の訪問で、コミュニティの融和と発展、そして着実な教育改善に繋がっていることを確認することができました。



パチュドン校では、若手先生方が指導法について勉強会を開いていました。

Child Right Promotion  
子どもたちが先生になる日 NO.4

Phase2の今年は、村人も巻き込んで、「ファミリーデイ」を開催。普段の成果を子供たちが披露！  
また、「幼児の栄養改善・身体測定」も実施しています。





村のお坊さんが土地の神様にお祈りします！

ベトナム北部トゥエンクアン省ティエンタン小学校の着工式では、村のお坊さんが出席し、こじんまりとした式を行いました。

豚などの肉類、数種類のおこわ、お花、お酒、村で収穫された野菜や果物などを供えし、紙のお札（さつ）やお札（ふだ）を焚いて、建設の安全と村人の健康、末永く建っていられるようにとお祈りする儀式となります。



着工の証！先生と村人が盛砂をします。

## 交流事業



## ベトナム留学生が伝えるベトナムの国

今年のA E F A出前授業は、11月時点でお算約80回。

東京都内をはじめ、福井県や式根島などにも訪問し、ベトナムやラオスの子供たちの暮らしを伝えました。A E F Aスタッフそれぞれの現場での経験談を日本の子供たちに伝え、共通点を見つけることで自分たちとのつながりや絆を感じられるような授業となりました。また、ベトナム人留学生が参加。自分の国を日本の子供たちに紹介する機会で、改めて自分を見直すきっかけにもなり子供たちにとっても、ベトナム人の生の声を開けるいい機会となりました。



### 文林中学校

昨年度の出前授業をきっかけにベトナム・リエンファン小学校と交流を始めました。生徒たちは、ベトナムの都市と山岳地域について勉強と発表をし、お手紙交換の末、ベトナムからのビデオレターで現地の学校の様子やペンパルの顔などを確認。異文化を学ぶことで手紙を通した交流が、生徒たちにとってベトナムへの関心が更に高まったようです。

### 式根島中学校



アオザイを着ました！



式根島小中学校では、「式根島と山岳地域」をテーマに、お互いの故郷

を活性化させるために自分は何ができるか、何がしたいかを考えるワークショップを開催。インターン生のヴィさんと大学生の小金井さんが参加し、何からチャレンジすべきなのかをディスカッションしました。生徒たちは自分のアイデンティティを生かし将来どのようにになりたいのか、山岳地域の子供たちの環境を知り、今後の野望を発表しました。

## AEFA往来 2017.7~2017.12

- 7月 ●福井県出前授業（4日～6日）  
 ●人権擁護委員会講演会（7日）  
 ●チャリティ タイ家庭料理会（8日）  
 ●TED×Sapporo（16日）  
 ●社会貢献者表彰式典  
 公益財団社会貢献支援財団（21日）
- 8月 ●AEFAフォーラム（5日）  
 ●未来FES（27日）
- 9月 ●ラオス視察（11日～20日）  
 ●チャリティ読書会（30日）

- 10月 ●式根島出前授業（5日）  
 11月 ●ヴァンパイア中高校開校式（1日）  
 ●スリランカ・サラナパラ小開校式（10日）  
 ●スリランカ・セントアン小開校式（11日）  
 ●タイ・ソプラーン小開校式（13日）  
 ●ベトナム・カオロイ小学校開校式（16日）  
 ●ラオス・pondouー小、ファイナ小中交流会  
 ●ラオス・ノンサノー小開校式（28日）  
 12月 ●ベトナム・ティエンタン小学校開校式（4日）  
 ●ベトナム・ソムニヨ小学校開校式（8日）  
 ●理事会（13日）



### ドンズー日本語学校 ホエ校長先生ご来所

2017年10月10日

ドンズー日本語学校のホエ校長先生が来所されました。同校OB/OGの皆さんがインターーンやボランティアとして、ベトナム建設校を訪問してフォローアップを行ったり、日本の子供たちとの交流事業に協力してくれています。「AEFA奨学金」や「暖かい冬プロジェクト～中部クアンナム省僻地の子供たちの支援」など独自プログラムでも活躍中です。ドンズーの皆さんとの協働で、ベトナムプロジェクトが地域に根付き、日本との架け橋となる人材が生まれたらいなと願っています。

### 新AEFA奨学金制度スタート!

ドンズー日本語学校が運営する「青葉奨学金」を通じて、新しいAEFAの奨学金制度がスタートしました！今年度は、60名の子供の支援が決定。

ベトナム僻地の子供たちに奨学金を支給し、卒業するまで見守ります。ドンズー日本語学校のボランティアの協力で、子供たちの学校生活をお伝えします。

#### <奨学生サポート募集中>

##### ●小学校2～5年生

1年間1人あたり 10,000円

1) 1人の子供を1年間応援する（1万円）

2) 小学校卒業まで4年間継続して応援する（4万円）

詳しくは、事務局までお問い合わせください！

数名の生徒のご支援も、もちろん可能です！



### 社会貢献者表彰

7月21日 帝国ホテルにて、当会を代表して、理事長が社会貢献支援財団から「社会貢献者」として表彰されました。ご支援・応援くださる皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。これからも精一杯活動に邁進してまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします！



私たち  
は各  
国の  
パート  
ナーNGOと  
手を携  
えて活  
動して  
います。



### 第12回AEFAフォーラム夏2017

ありがとうございました！



8月5日（土）に、ポプラ社ホールをお借りして「AEFAフォーラム」を開催しました！理事長より「奔走老人」講演・特別ゲスト：橋川幸夫氏より、今後のAEFAの展望・挑戦などをお話いただきました。ベトナム若者プロジェクトのマイスアンカンさんの発表では、「ベトナムの少数民族の子どもも、教育を受ける権利がある。ベトナム人である自分が、何もできない恥を感じながら、AEFAから刺激を受けている。谷川理事長は、老人でも山岳地帯を走り回っている。人によっては、何のためにそんな疲れるようなことを頑張っているのか理解できないと」という人もいるだろう。しかし自分には、とても羨ましく、美しい姿に見える。幸せとは何か？もっとも幸せな生き方は、人を幸せにする生き方だと感じた。」という発言に、会場から共感と拍手が湧き上りました。



ベトナム：Viet-Nam Assistance for the Handicapped(VNAH)/Saigon Children's Charity(SCC)/Research and Communication Centre for Sustainable Development(CSD)

ラオス：Association for Community Development(ACD)

タイ：Raks Thai Foundation(Care Thailand)



# フレンド会報 号外II

2017年12月発行 - 文責：インターン VI (ヴィ)



AEFAの3層構造理念

今回の学校フォローアップ視察は、初めて現地人（ベトナム人）だけで行うことに挑戦してみました。訪問した学校は、中部ダナン市のTRIEU THI TRINH（チエウティチン）小学校、HOA BAC（ホアバック）小学校GIAN BI（ジアンビ）分校、そしてホイアン市のLUONG THE VINH（ルオンテーヴィン）小学校の合計3校です。メンバーは、AEFAのインターン生ヴィーと、社会貢献への意志を持つ4人のベトナム人の若者、合計5人です。その中の3人は、ホーチミン市の大学生で、ホーチミン市以外の遠隔地域のことを全く知らず、その子供たちの様子を知りたいからと言って、自分のお金でダナン市まで行き、この視察団に参加してくれた。残りの一人はAEFAに事前から興味を持っており、ちょうど日本に留学期間を終え、これからダナン大学で教授として勤める傍ら、ベトナム人として何か手伝いたいという気持ちで参加。これからもAEFAのダナンでのプロジェクトにも支援してくれるそうです。

左から：ダナン大学の助教授デンさん、LUONGTHEVINH小校長先生、AEFAインターン生のヴィー、5年生のトゥームちゃん、同行する現地学生ボランティアのロックさん



## ベトナム 中部3校で 現地若者による フォローアップ 事業

という経緯で、5人組の視察団ができて、2日間で3つの学校に訪問しました。

ベトナム教育では、毎日のカリキュラムからテキストまで全国はすべて統一されている一方、学校によって、学校の雰囲気と先生の熱意の差異が大きく違うという不思議な感じが一番驚きました。今回は残念なことに、まだ夏休み期間なので、生徒が勉強している姿を見られなかっただが、何人かの生徒にインタビューができ、校長先生から色々話を伺うことができました。どの学校も皆が非常に大事に使って、とてもきれいです。新学期の準備のために、再塗装したり、新しい机、ガラスを再整備したりして、どの学校も新たな気持ちで、新学期を迎えるため頑張っています。

そして、近年ベトナムの発展が発展していくことにより、学校の周辺の市民の生活水準も段々と上がるようで、貧困家庭の生徒数がかなり少なくなりました。ホイアン市のLUONG THE VINH小では、貧困家庭数はもうゼロとなりましたが、これからの問題は経済的な貧困というより、離婚率増加、離散家族などが多く精神的な貧困の方が深刻だと同校の校長先生が主張されました。

3つの学校の中で、一番印象に残ったのはHOA BAC小学校のGIAN BI分校でした。その先生方は生徒と同じく、全員COTU少数民族で、この地域出身の方々です。そういう学校との深い関係を持つからこそ、生徒への熱意さを感じました。ラオスで実施している「地域の先生育成制度」のようなプロジェクトが是非将来ベトナムでも実現できれば、より多くのHOA BAC小のような学校を創造できればと期待します。



# VIETNAM

## 暖かい冬を届けるプロジェクトの ～ご報告～

今年の8月に、「暖かい冬プロジェクト」その後の経過を観察しに、ベトナム中部のクアンナム省の最も貧しいナンチャミー地区まで行つきました！AEFAの初若者プロジェクトとして、今回の出張は日本人1人もおらず、AEFAのインターン生のヴィーは現地の仲間たちと一緒に行きました！ベトナム人の若者たちは「母国のこと知ろう」とやる気満々で、4つの分校にも回つきました。



### ▼学校の現状：

ティウカン小学校では合計9つの分校があります。そのうち都市から一番近い4つの分校に行きました。各分校では日本の文化と、持ってきた日本の小学生が作ったおもちゃを紹介し、色々ゲームを行いました。生徒たちは最初恥ずかしがりでしたが、時間が経つと、積極的にゲームに参加してくれました。

一番遠かった分校までは、滝を渡ったり、木を避けながら森の中を通り、2時間掛けてやっとたどり着くぐらいでした。しかし、そこで出会ったのは本校で一番長く勤めている60代近い先生です。二人の先生は生徒を教えるだけではなく、子どもたちの生活を世話したり、朝から晩まで授業と食事準備などで忙しく、一杯一杯になっています。学校と隣の幼稚園の間のスペースを自分の「家」にして、学校に泊まり込みでいます。



### ►先生の声

ここまで道を思い出して、私たち若者にもかなり厳しかったが、先生の体調に心配し、伺ってみると、予想外の答えを頂きました。「確かに、こんな遠隔地で教える先生はいません。私たちはもうすぐ定年しますので、このような遠い分校で彼らに教える機会もそろそろ終わりに近い。今までの経験を活かし、彼らのために最後に何かしたいですよね。」

この言葉には、本当に刺激を受け、問題山積みのこの学校への希望が芽生えたように感じました。

### ▼それより、課題は

**意志不統一：** 当初、学校と約束した服の保存率が期待以上に達成されていた（保存率見事に100%）。予想外だなあと思って詳しく聞くと、先生が学校でしか配布せず、毎日コートを回収していました。結局、子供たちに「ものを大切に使う教育」という狙いを伝えられず、保存率であるアセスメントだけに注目され、これを目的または義務として意識されてしまった。ソフト面の教育をする余裕もなかったです。

### 先生の切望：

ものを大切に使う教育をしましょうと言っても、「彼らにこんなことを教えるのはムリだ」と先生から絶望的な答えしか貰いませんでした。毎日服を回収するという負担は彼らを教えることより、まだましなようですが。生徒への教育を行う前に、先に先生に教育の意味と「人」を育てるには先生の重大な役割を伝えないと気がつきました。



### ▼今後のプロジェクトの進め方 協力者大募集！

現在、ナンチャミーでは新しい新入生のプロジェクトを、既にスタートしています。「子どもへのソフト教育」から、「先生の意識改善」を中心にプロジェクトを進めようと思っています。ナンチャミーの子どもは、物を使う、片付けるという単純なことでも理解していません。でも、諦めずに、小さな事から教育を始めないといけません。そこで、私たちは日本で身についた日本のもの使い習慣と、ものを大切に使う意味を語り、子どもが成長する小さな変化を見せて、教育の力は素晴らしいをということを先生に伝えたいのです。

初の挑戦として、ソフト教育の目的までは叶わなかったですが、諦めずに、先生との信頼関係を築いたり、モティベーションを上げたりすることにより、最終的に「こういうことを教えたい！こういう生徒になってほしい」と先生方が思えるようになればと期待しています。ですから、長年に亘って、このプロジェクトを続けていく意味があると信じます。

私たちと一緒に、ナンチャミーをよくするために、毎年より暖かい冬を作りませんか？



# 日本の子どもの心を耕す出前授業

## ～受益者は日本の子ども～



出前授業講師団  
(AEFAフェロー)  
菊地 修治

### \* 「受益者は日本の子ども」

出前授業をさせていただいた当初、私は授業の意義を「現地の子どもたちの様子を通してAEFAの活動を少しでも多くの人に理解してもらうこと」だと思っていました。何度目かの出前授業の時に、谷川理事長さんが参観してくださいました。その帰途の電車の中でのこと。

私は「子どもたちは驚きや発見で授業を体感していますが、なかなかワンコインスクールや支援活動、交流に結びつかないですね。」

理事長「出前授業はそれをあえて求めなくていいんです。ラオスやベトナムの子どもの生活を知ることで、今の自分を未来に向けて見つめなおせばいいんです。直接的な受益者は現地の子どもたちですが、最終的な受益者は日本の子どもなんですね。」

理事長さんのピュアな思いをお聞きして、今一つはっきりしていなかった私の授業づくりの方向性が「どうすれば日本の子どもを元気にできるか」に定まったのです。

### ○心の対話をする子ども

ある年の卒業を前にした6年生。「荒れ」で落ち着かないという話をお聞きしたので、3クラスそれぞれで授業をさせていただきました。ラオスの子どもたちの生活を考える場面になると、食い入るように画面を見て思考する子どもの姿が教室中に広がりました。教室中の子どもの心が一つになっているのです。現役時代にも数回あったかどうかという「教師が震える雰囲気の授業」が目の前に！

「自分たちの生活は幸せなんだなあと改めて思った」「学ぶことってこんなに大切だとは知らなかった」「あれもこれも嫌い、という自分はなんてぜいたくなんだ。」「私たちを必要としている世界の子どもたちがたくさんいることを忘れず“自分に何ができるか”を考えていく」「世界中仲良く助け合って生きていけるような世の中をつくるになりたい」・・等の子どもたちの感想を見ると、ラオスやベトナムの子どもたちの生活実態が持つ「学習材としての価値」を痛感させられました。

### 授業後、参観してくださった先生方の感想。

「いつもにぎやかな子どもたちがとてもいい顔をしていました。何のために学ぶのか、これからどんなことをして行けばいいのかということを、心にメモしたと確信した。」



「子どもたちは、本当に真剣に耳を傾けていた。目にも力が入っていた。いい環境で学べる自分たちと比べながら食い入るように話を聞いていた。しっとりと落ち着いた、そして今学ぶべきことに集中した、素晴らしい時間だった。」

これを境に私は「子どもが心の対話をしながら自己の生き方を見つめなおすことができる授業」を創り始めました。

## \* 「森のスーパーマーケット」ゲーム

私の多くの授業には「森のスーパーマーケットゲーム」という「パチンコ」体験が組み込まれます。ラオスの宿泊地の森に子どもが来て、パチンコで木の実をとっておやつにしていたのを見て、これは授業に生かせると思ったのがきっかけでした。日本の子どもたちは、当たりそうで当たらない。現地の食糧確保の困難さをちょっとでも体感してくれるのです。90分授業の時は「水運び体験」も組み入れることもあります。映像と体験は子どもの印象を強くし、思考を高めます。



## 求む！授業者！講師募集中！

AEFAには、今後ますます出前授業の要請が増えてくるでしょう。ラオスやベトナムなどの建設校で現地の生活をご覧になったみなさん、ご自身の言葉で、教室に出向いて授業をしていただけないでしょうか。AEFA実践現場の子どもの姿は、確実に日本の子どもの心を耕します。ラオスやベトナムの子どもの笑顔は、日本の子どもを笑顔にします。できるだけ早い機会に「あなたも授業者講座」を開催させていただきますので、ぜひご参加ください。一度授業をしてみると、きっと2度目の授業をしたくなります！



## 今年も バザーで ボランティア！



毎年恒例！株式会社近江兄弟様「ニコニコチャリティーバザー」に出店させていただいています！早いもので、今年で4年目となります。関西支部の宮崎さん、柴野さんが中心となり、AEFA活動紹介、ラオス手織布の小物販売等ご協力いただいています。



## AEFA関西の会

「現在AEFA関西支部では、毎月一度のミーティングを開催し、AEFA本部の業務補助等の活動をしています。例えば、これまでにAEFA会報の発送に関わる封入作業や支援校の情報データベースづくりなどに携わりました。職業や立場の異なるメンバーがアジアの子どもたちに思いを馳せて集い合い、わいわいと語り合いながら親交を深めています。

私の場合、開発途上国の教育の現場にどのような形で貢献することができるのかと模索していたところ、AEFA関西支部との縁に恵まれました。そして関西支部の皆さんと交流を重ねるなかで、まずは今いる場所で自分にできることから行動を始めていこうと決心し、活動を続けています。

関西圏にお住まいの方、AEFA関西支部の活動に関心のある方、アジアの子どもたちのために何か行動を起こしたい方、AEFA関西支部にお気軽にお越しください！」(関西支部:松浦)

＜ご連絡は、東京事務所までご連絡ください！＞

### 関西支部のボランティアスタッフ

